

【研究者インタビュー】 No.9 高等教育推進機構 熊安貴美江 准教授

引用	研究者インタビュー. 2020, 9
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017001

図書館ではリポジトリ、オープンアクセスについて広く知っていただくために、研究者インタビューを実施しています。今回は、リポジトリ OPERA のダウンロードランキングで上位にランクインしている論文「[日本のスポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントの実態と防止のための課題](#)」(女性学研究 *Women's Studies Review*. 2019, 26, p.67-82)の著者熊安先生にお話を伺いました。

図書館：

先生の研究分野について教えてください。

熊安先生：

広く言えばスポーツ社会学ですが、その中でもスポーツとジェンダーが専門分野で、今回書いたようなスポーツのセクシュアルハラスメントがコアな研究関心です。

このテーマについては、継続的に研究を行っている学会等がありませんでしたので、2002年頃に研究チームを作りました。スポーツの中での暴力や体罰といった研究をされている方はいらっしゃいますが、セクシュアルハラスメントはアンタッチャブルな領域で、スポーツ界の現状を示していると思っています。



図書館：

元々のご興味はセクシュアルハラスメントにあったのでしょうか。

熊安先生：

学生時代から、大阪女子大学の教員となった後も何年かは、スポーツ史を研究していましたが、その分野の文献には女性に関する記述がなく、興味がなくなってしまいました。その一方で女性学に興味を持つようになり、スポーツとジェンダーがクロスする点で何か見いだせるものがあるのではないかと思います。

国際学会では「スポーツにおけるセクシュアルハラスメント」という課題で研究が進んでいて、2000年頃に海外で出版されたスポーツ社会学の本には、少なくとも1つの章にジェンダーの項目がありましたが、日本ではスポーツとジェンダーについてのメカニズムなど分析的に書かれている資料はなく、最初は海外の研究に啓発されて始めました。

図書館：

女性学が盛んだった女子大に就職されたということは影響していますか。

熊安先生：

女子大という環境は大きかったと思います。女性学という視点について、いろいろな分野の人が領域横断的に研究されているということが学際的に面白く、また、女性学の文献では自分の問題を自分の言

葉でこのように語れるのだということがわかって、大変興味を持ちました。

図書館：

先生の「日本のスポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントの実態と防止のための課題」はリポジトリのダウンロードランキングで上位にランクインされています。一般の方でも興味をお持ちの方が多いということだと思います。



熊安先生：

『女性学研究』26号に掲載したこの論文は、前年の学術会議で報告した内容を元に作成したものです。

論文は読んでいただいて初めて意味がありますので、リポジトリのように、研究者だけでなく誰でもアクセスできる状況にあるというのはすごく意義がありますね。学外からよく閲覧されているようで、価値のあるありがたいシステムだと思いました。

図書館：

先生の分野にはオープンになっている専門誌があるのでしょうか。また他大学で発行されている紀要などをリポジトリでご覧になることはありますか。

熊安先生：

自分たちで作った「日本スポーツとジェンダー学会」や、スポーツ社会学会の「スポーツ社会学研究」などの研究誌があります。紙の雑誌だけでは手が届く人は限られてしまいますが、インターネットの時代ですので、キーワードを入力すれば、こんな論文があるというのがすぐに分かります。

リポジトリでというのではなく、特定の先生の論文を検索していると大学のリポジトリで公開されていることがあります。どこまで遡って登録されているのかということが重要です。古い文献についても登録していただくとありがたいのですが。

図書館：

過去の文献の登録については紙しかないものや、著作権の問題などの課題がありますが、できる範囲で取り組みたいと思います。その他図書館へのご要望がありましたら、お願いいたします。

熊安先生：

初年次ゼミを担当したときに図書館ツアーがありましたが、大変良かったと思います。大学の図書館では、自分の研究関心に基づいた蔵書を検索する必要がありますが、使い方がわからないことがあるので、図書館ツアーは画期的でいい取り組みだと思いました。

図書館が身近に感じられますし、図書館の機能を紹介していただくと、教員にとっても学生にとっても役に立ちます。素晴らしい取り組みだと思いますので、ぜひ続けていただきたいです。

図書館：

熊安先生、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。